

ドッグ豆知識

ドッグの病気や健康、性質などに関する豆知識をご紹介します。

気づいたら
早めに
病院へ!

犬種別かかりやすい病気

当施設では毎日、欠かさずドッグたちの健康チェックを行い、体調を確かめた上でセラピーを実施しています。また、日頃の体調管理に加え、犬種によって「かかりやすい病気」を調べておき、普段からその点に注意し、よく観察しておくことを大切にしています。そこで、当施設のドッグたちを例に、犬種別の「かかりやすい病気」についてご紹介します。

柴犬



年を取ると認知症になりやすい犬種です。性格的に我慢強い一面があるため、小さな変化をも見逃さないように気をつけましょう。

【かかりやすい病気】

- アトピー性皮膚炎
- 食物アレルギー性皮膚炎
- 外耳炎
- 膝蓋骨脱臼



ポメラニアン



小型犬の中でも骨が細く、弱い犬種です。好奇心旺盛で活発なため、骨折などに気をつけましょう。

【かかりやすい病気】

- 膝蓋骨脱臼
- 気管虚脱
- 流涙症
- アロペシアX(脱毛X)



ラブラドルレトリバー



食欲旺盛なため、早食いや水のがぶ飲みによる胃捻転に気をつけましょう。最低でも食後1時間は、ゆっくり休ませると良いですよ。

【かかりやすい病気】

- 股関節形成不全
- アトピー性皮膚炎
- 外耳炎
- 胃拡張胃捻転症候群
- 悪性リンパ腫



シーズー



寒さに比較的強く、暑さに弱い犬種です。これからの季節は特に「熱中症」に注意が必要です。

【かかりやすい病気】

- 肛門周囲腺腫
- 外耳炎
- 角膜炎
- 鼻腔狭窄(先天性)
- 皮膚炎



雑種



様々な遺伝子が混ざっているため、犬種特有の病気にかかりにくいという特徴があります。また、環境の変化にうまく対応することができ、体調を崩すことが少ないです。

一方で、「ハーフ犬」や「ミックス犬」と呼ばれる、純血種同士の両親から生まれた犬の場合は、それぞれの犬種に多い病気にかかりやすい可能性があるため気をつけましょう。

お知らせ



いきがいライフたかまつ 「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」 休止のお知らせ



現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」と集団ドッグセラピーを休止しています。再開のめどがつかましたら、改めてホームページ等でご案内いたします。ご利用者様やご家族の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

参加申し込み先

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部 E-mail dog_therapy@ikenaga-group.jp

※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。



〈お問い合わせ〉

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

<http://www.therapydog.jp>

Instagram
はじめました

[Dog_therapy_ikenaga](https://www.instagram.com/dog_therapy_ikenaga)



燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol.34 / 夏号
2021年

Contents

- 新しい仲間が加わりました!
- 子犬の社会化トレーニング
- 活動報告(個別セラピー/個別対応/集団セラピー)
- ドッグ豆知識/犬種別かかりやすい病気

【新しい仲間が加わりました!】

広島県福山市のブリーダーさんから新しい仲間を迎えました。「福」という名前は、福山の「福」と幸福の「福」からつけました。「福」は食欲旺盛で元気いっぱい、やんちゃな男の子です。おすわりして、しっぽをフリフリしながら見つめてくる姿がとてかわいらしいですよ。柔らかい毛並みもチャームポイントで、職員みんなの人気者です。いまは、環境に慣れるための社会化トレーニングを行っているところです。



2021年2月4日生まれ
オス♂

子犬の社会化トレーニング

子犬が成長していく過程において、生後3週頃から16週頃までを「社会化期」と呼んでいます。子犬が様々なものに慣れるのに適した時期であることから、この頃の過ごし方が今後の成長に大きく影響してきます。また、社会に順応するためにも、とても大切な時期なので、子犬にとって楽しい経験と組み合わせながら、いろんなものに少しずつ慣らしていきます。

【社会化トレーニングの例】



体を触られることに慣れる

頭からしっぽの先まで、どこを触られても落ち着いてられるように。



いろいろな人に慣れる

男性、女性、子供、高齢者、メガネ・帽子、制服を着た人などに慣れる。



環境に慣れる

家の中の生活音、外の景色、サイレンの音、車に乗せるなどに慣れる。



ものに慣れる

ハウス、首輪、リード、ブラッシングブラシなどに慣れる。



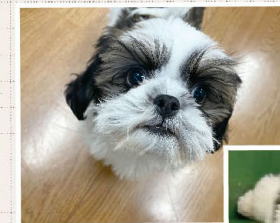
他の犬との関わりを持つ

犬同士のコミュニケーションの取り方を学ぶ。

【基本トレーニング】

上記に加え、基本的なトレーニングとして「ハウス」や「トイレ」「アイコンタクト」「呼び戻し」などを教えていきます。

※当施設のドッグたちは、施設内の環境だけでなく、車椅子や杖・歩行器も生活の一部になるよう、子犬の頃から慣らしています。



【ドッグセラピー 症例報告】

個別セラピー 症例

〔利用者様のご様子〕

- 居室にて過ごされることが多く、独り言が増加傾向にある。
- 着替えなどの身だしなみを整えることに拒否がある。

〔問題点〕

- 居室で過ごされることが多く、おやつも居室で食べるなど引きこもりがち。
- 独り言が増え、洗髪など自分でできることも職員に頼むことが増えた。

目標

- 着替えなど、身だしなみを整えることにより起床時間を延ばし、フロアで過ごされる時間を増やす。
- 行動、発語などの自発性の向上。

実施方法

週2回 14:30～(おやつ前) 20分程度

- セラピードッグとの触れ合いを通じて、自発的な行動・発語などの促しと活動量の増加を図る。
- セラピードッグと散歩に出かけるなど、意識を外に向けるきっかけを作る。



Kibi
きび

黒柴

Aさん (95歳・女性)

- いきがいライフ高松
- 実施期間: 2021年6月～継続中
- セラピードッグ: きび

集団セラピーでうかがった時、Aさんの「きび」に対する反応が良かったこと、Aさんが昔、柴犬を飼っておられたことから担当を「きび」にしました。

評価基準

- 2週間に1度、施設の担当者に「バーセルインデックス」「クリクトン高齢者行動評価尺度」「セラピー評価表」の3つの指標を使って、ADL(日常生活動作)やQOL(生活の質)について評価をしていただく。
- セラピーが行われない時でも、「着替えを行う」などの自発的な行動が見られたなどの変化について評価をしていただく。

個別対応

認知症のある入所者様・利用者様の不穏症状など「突然起こる不安」に対し、ドッグと共に駆けつけ、その方・その時に応じた個別対応を行います。その時々で解決できることが中心なので、その後の結果は追わないことにしています。

〔取り組み内容〕

新しい入所者様の中には、「いつもと違う環境」に対する不安もあることから、入所からしばらくの間、「帰宅願望」の症状が強く出る方がいらっしゃいます。そんな時、ドッグと触れ合い、お話をすることにより、一時的ではありますが落ち着かれることがあります。また、デイケア/デイサービスを利用する、ひとつの「きっかけ・楽しみ」となるよう、ドッグと共に「誘い出し」なども行っています。

事例①

Iさん (88歳・男性)

- いきがいライフたかまつ
- セラピードッグ: きび



ショートステイご利用中に帰宅日が延長になり、強い帰宅願望が見られる。昔、柴犬を飼われていたので、「きび」と触れ合う。「かわいいなあ」と表情が明るくなり、落ち着かれる。後日、「集団セラピー」を実施。ドッグが来ることを知って「楽しみに待つ様子」が見られた。

事例②

Nさん (88歳・女性)

- 高松アクティブホーム
- セラピードッグ: メイ



入所されて10日目の頃、エレベーターで降りようとするなどの帰宅願望があり、職員が困っていたので「メイ」との触れ合いを実施。その後も「メイ」との触れ合いを繰り返すことで徐々に落ち着きを取り戻された。約2週間後、再び触れ合いを行った際、「メイ」のことを覚えてくれていた。

事例③

Hさん (90歳・男性)

- 高松アクティブホームDS
- セラピードッグ: メイ



デイケアに加え、デイサービスもご利用なさることになったが、デイサービス利用は拒否された。そこで、「デイサービスに来るとドッグに会える」というきっかけ作りを行うことにした。利用日に触れ合いを行うことにより、その時間を楽しみにデイサービスに来られるように変化。帰宅後、ご家族にドッグと触れ合ったこととお話される様子が見られた。

集団セラピー

〔触れ合い〕

感染防止対策をしっかりと行った上で、利用者様がいつも過ごされているホールや居室にうかがい、触れ合いを行っています。

〔レクリエーション〕

感染防止対策を徹底した上、2～3回に1度のペースで、「手先を使う内容で」「犬におやつをあげたい」など、各事業所の要望にこたえる形でレクリエーションを行っています。

レクリエーションの具体的な内容



おやつ送りリレー

お箸(またはスプーン)を使っておやつを送る。

〔準備する物〕

- お皿(食器)
- お箸(持ちにくい場合はスプーンを使う)
- おやつ(つかみやすいもの)

〔注意点〕

- おやつを運んでいる時に、ドッグが飛びつかないようにする。
- 運んでいた際の道具は落とすとしても壊れないものや、つまみやすいものを選ぶ(割りばしや紙皿など)。

おやつ送りリレー

チームに分かれ、利用者様がリレー形式で「おやつ」を受け渡し、最後尾にいるドッグの前まで送るはやくを楽しく競います。

目的

- 手指、上肢の運動
- 他の利用者様とのコミュニケーション、協調性の促し

〔方法〕

- ①各チーム1列に並ぶ。最後尾にドッグ用のお皿(食器)を置いてゴールとする。
- ②お箸(またはスプーン)を使い、スタート地点にいる人から順番に、隣の人へ「おやつ」を受け渡し、ゴールのお皿まで送る。
- ③全ての「おやつ」をゴールまで、よりはやく届けたチームが「勝ち」!

Point!

最後のおやつだけ違う形にすると最後だと分かりやすい。

風船バレー

利用者様とドッグが風船を使い、全員バレー(円陣パス)を楽しみます。

目的

- 上肢の運動
- 空間認知訓練

〔方法〕

- ①中心にドッグが座る。ドッグを取り囲むように利用者様が輪になって座る(輪は小さい方が良い)。
- ②「スタート」の合図で、利用者様→ドッグ→利用者様→ドッグの順で風船を打ち合う。
- ③風船が落下するまで打ち合う。パスが何回続くか数える。

〔準備する物〕

- 風船(必要があればカバーをかける)

〔注意点〕

- ドッグが利用者様に飛びつかないようにする。
- 風船がドッグの歯に当たって割れないようにする。

風船バレー

